



2025 TOGO in Seoul

2025国際交流プログラム報告書 統合デザイン学科

December, 2025

2025年11月28日～12月2日、統合デザイン3年生14名を引率し、韓国ソウルにて3泊4日の国際交流活動を実施した。本来の活動定員は10名であるところ、学科の人数と希望者の多さを鑑み、国際交流センターに特別に人数増員のご理解をいただいたことに感謝の意をお伝えしたい。

今回の交流活動は、韓国でトップクラスの私立大学のひとつである高麗大学(Korea University)とのワークショップを通じ、都市の中の包摂と排除という観点からデザインに対する気づきを得ることを目的とした。



Day1: 11/28

午後の便でソウルに向けて出発し、18:00過ぎに金浦空港に到着した。この日はホテルにチェックインをしたのち、翌朝のワークショップに備えて早めの休息をとった。



Day2: 11/29

今回の訪韓の一番の目的である高麗大学との終日ワークショップ開催の日である。朝早い時間の集合だったが、全員が集合時間前にロビーに集まり、それぞれが緊張と期待の入り混じった思いを抱きながら、バスで高麗大学へ向かった。

高麗大学の広大なキャンパスではちょうど木々が紅葉の見頃を迎えていた。土曜日で学生のまばらな敷地をすすみ、本日のワークショップ会場のある建物に到着すると、Taeil Lee教授が出迎えてくれた。高麗大学の中で一番高い建物であるMedia Hallの最上階会場では、今日のワークショップのためにバナーが用意され、また軽食や飲み物なども用意いただいており、このプログラムに対する先方の期待と歓待の気持ちが感じられ、ありがたかった。

この日のプログラムは、Lee教授と半年近くにわたってやりとりを重ねながら計画を練ってきた。





定めたテーマは「Inclusion in the City」。都市の包摂と排除を、異なる文化背景をもつ視点から見つめ直し、デザインの機会領域を探ることを目的とした。普段の暮らしでは見過ごしがちな物事を観察し、双方の視点を比較すること、また言語だけでなく様々な背景が異なる視点から改めて周囲の環境を見つめ直すことで、新たなデザインの問いを生むきっかけとなるのではないかと判断し、このテーマとした。



高麗大学からは、週末にも関わらず、3年生の有志18名が参加してくれた。多摩美の参加者は韓国からの留学生1名、韓国語をある程度理解する学生が数名いたほかは、韓国語にはほぼ馴染みがない学生が大半だった。早速6つの混成チームに分かれ、まずはアイスブレイクとして多摩美の学生が持参した東京特有の写真を見ながら、どんな状況なのかを高麗大学の学生に推測してもらうエクササイズを行った。はじめは緊張が勝っていた学生も、写真を見せ合い、意見交換をするうちにリラックスした表情に変わり、和やかに交流を行っていた。



その後、チームごとに任意の場所へ出向き、都市の包摂や排除の事例を見つけてくるというフィールドワークを行った。キャンパス近くでも構わないと伝えたが、ほとんどのチームが高麗大学の学生のおすすめエリアまで足を伸ばし、韓国ならではのランチタイムを挟みながら、ソウルの街を興味深く観察してまわった。





学生たちがフィールドワークに出ている間、引率の詫摩・佐々木はLee教授に高麗大学のキャンパスを案内していただいた。広大なキャンパスの中にあるミュージアムや歴史的な建築物、そしてファインアート専攻の卒業制作展など、高麗大学の豊かな学びの環境を垣間見る機会となった。その後、Lee教授の同僚である Seunghun Yoo教授にもお会いし、しばし高麗大学のプログラムについてなどの話を伺うことができた。



午後になり、フィールドワークから戻ったチームは、それぞれの気付きと、それに基づいたデザインテーマについての議論に入った。フィールドワークの疲れがやや見えたが、それぞれのチームが真剣な面持ちでテーマと簡単なデザイン提案をまとめ上げた。

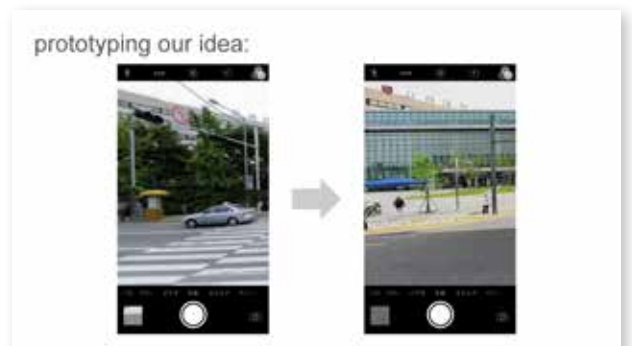
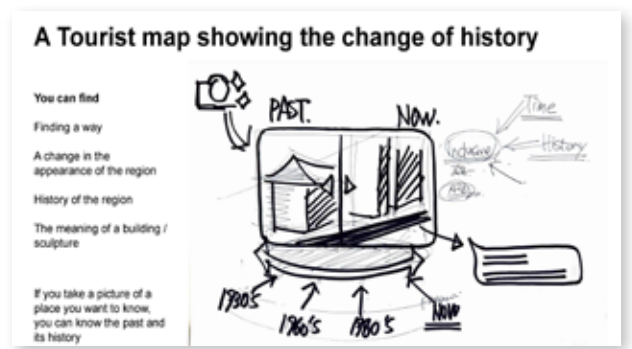
プレゼンテーションでは、高麗大学の学生の語学力の高さに感心しただけでなく、多摩美の学生の現場力に驚かされた。語学に覚えのある学生はもちろん、プログラム開始前は自信なさげだった学生も、堂々と自分の言葉でプレゼンテーションを行う姿などが見られ、わずか1日の中でも成長が感じられた。

ワークショップ終了時にはすっかり暗くなっていたが、お互いにSNSのアカウントを交換しあったり、名残惜しそうに記念写真を撮ったりと、1日のプログラムを通じて高麗大学の学生と新たな関



係を構築していた姿から、プログラムの成果を実感した。

Lee教授からも、ぜひこの関係を継続していきたいというありがたい言葉をいただくことができた。また高麗大学の学生からも、今度は多摩美を訪問したいといった言葉が聞かれ、双方の大学にとっての新たな関係の芽吹きを感じる1日となった。



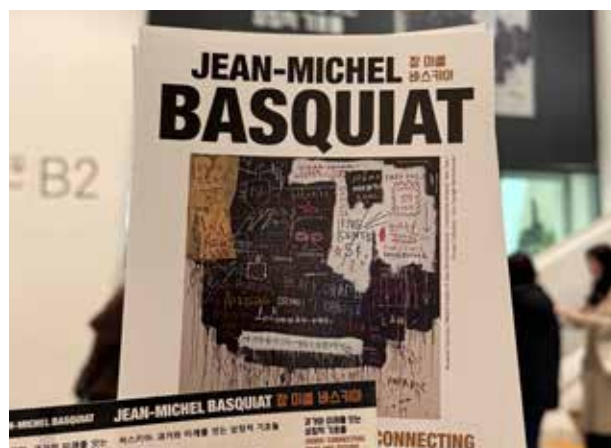
Day3: 11/30

午前中はサムソン文化財団運営のLeeum美術館へ向かった。韓国の古美術の常設展示は無料で見ることができる。マリオ・ボッタ設計の建物も素晴らしく、広々とした空間を思い思いに歩いて回った。その後、グループごとに、ソウルのアートやデザインをテーマにフィールドワークを行った。別の美術館に出向いたり、韓紙によるクラフト作成のワークショップに参加するなど、それぞれのチームが思い通りの視点で、ソウルの最新デザイン・アート事情に触れる時間を過ごした。



Day4: 12/1

活動の最終日は、ホテルから徒歩で30分ほどのところにあるDDP(東大門デザインプラザ)を訪問した。ザハ・ハディド設計のランドマーク的な建築には、デザインストアや若手のデザイナーの展示など、韓国の最新のデザインに関するあれこれが集積しており、見応えのある空間となっている。学生たちは思い思いに歩きながら、お気に入りのデザインアイテムを見つけたり、展示をじっくりと眺めたりと、ソウルの街が発信するデザインの力を、帰国前の限られた時間をめいっぱい使って感じ取っていた。



参加学生

安藤桃花
石橋茉央
小河原詩織
川上桐子
金子世奈
金子春菜
金子真璃
熊坂拓海
桑井朝菜
杉山緑
土井星知
羽生りる
ホンジェフン
丸子莉音

引率教員

詫摩智朗
佐々木千穂

